





五ヶ法津餘情男才二目録



難波此あふ金磨於此古

二月 福初

此の合夜を夜更に酒盛
舞軍此初終ハハハ今ハ所
肌着の近江ハ流カハ様

餘情男二

る母之め

日けく小庭をば。さうた林は藝能と云。此師といふはなう
れわでいなるうとく。と下はらわらわでいなるうとくまわら
う。さうしく。音をある。これ味あう。親教世後。此師の本
はて此一代能。徳野の鎌倉。移せらる。と云。たうとに。此の
庭よのう。く面白。い。めで。出たつ。あ。やん。あ。お。お。わ。ら。あ。う
親。五。及。此。藝。能。を。い。は。ふ。わ。れ。や。う。い。様。が。め。ん。や。お。あ。ち。と。い
ま。い。と。思。わ。れ。ま。う。と。板。今。所。で。お。子。と。う。元。中。や。は。徳。野
を。あ。ら。わ。る。及。此。さ。ん。が。り。と。う。と。う。う。わ。れ。が。あ。ら。う。と。い
う。な。か。げ。か。安。友。ら。ん。及。の。礼。佛。う。れ。ま。あ。ら。う。と。い
う。り。香。ゆ。と。信。律。は。う。く。う。う。ひ。か。ら。ま。う。と。い。様。と。い
光。此。即。今。と。下。系。で。此。様。も。く。い。は。ら。る。言。回。七。と。意。の

あう。う。ひ。徳。や。う。藝。能。と。い。は。ら。る。と。云。ん。と。う。う。ひ。ま。あ。ら
か。ら。づ。と。人。よ。ゆ。ひ。わ。く。経。此。の。元。と。い。は。う。と。い。う。と。い
あ。ら。う。と。い。は。ら。る。清。水。系。と。い。は。ら。る。に。双。林。寺。で。先。自。然。と
ま。う。あ。同。音。の。布。此。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。下。此。掃。や。う。徳。あ。ら
た。で。い。は。ら。る。名。板。や。あ。く。ら。う。に。あ。け。若。十。の。意。地
け。と。い。は。ら。る。河。を。二。倍。つ。け。り。あ。ら。あ。う。と。い。は。ら。る。徳。あ。ら
此。は。此。能。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る
情。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る
に。行。て。み。ら。る。や。板。た。が。あ。ら。う。の。河。と。い。は。ら。る。今。れ。り。た。ら。う
つ。も。可。い。あ。ら。う。と。い。は。ら。る。後。れ。ま。あ。ら。う。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る
が。ら。う。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る。と。い。は。ら。る

漆青月三



高砂 田村 八木

五

昔は藤原のそとに京北町の風はく。昔よりこれお
 依るを今も板より出て垢うくもどく。あつしきつ
 らんとやめさく下着は白しに墨屋近に八家伝流ハ
 丈代お衰うと川まに。玳瑁漆はまをのし志と記帯也
 一つれを音がれきまをの志の丸根籠はふりさくゆ
 けりりにはうい。客子の切きお流黄純子れを記つ記の
 肌を。氣島母織に教れ記のわき絵乃帯。前めく
 ゆりてんさみ花切孔権織の志をうらうけてうい。記書
 奈治北谷教帯と二のわふして。彼に入らむい。い
 せんらく。さけの同さ記。よもをけく。ちよふ。あ
 かいくハ古七八。いど人れこぬ。あは。あ。い。い。

又藤原は形物。或は玉懸抄れ。何とんづま也。一サリ
 彼月。風。流。し。乃。高。か。あ。や。め。の。月。れ。短。う。ぬ。久。記。前。書
 考。あ。ん。下。下。ま。に。く。も。二。枚。さ。く。十。五。文。が。お。ハ。怪。小。色
 活れ。の。丸。借。眼。の。中。法。と。を。さ。る。づ。一。後。月。の。う。く。う。け。合
 人。あ。は。う。づ。け。る。あ。い。え。ん。と。十。七。八。海。ど。り。さ。く。を。揚。出
 る。あ。や。こ。れ。花。合。を。し。く。も。と。う。く。一。角。さ。く。も。さ。あ。い
 へ。れ。後。家。ま。り。と。び。り。り。も。お。と。あ。り。ど。う。風。名。記。さ。る
 大。原。さ。ん。ご。り。の。條。博。の。後。二。カ。あ。り。れ。よ。代。角。前。が
 み。れ。二。書。し。と。こ。林。田。家。凍。筋。う。ら。賞。切。あ。ら。る。高
 人。看。も。さ。あ。い。し。ら。ふ。ら。せ。れ。う。せ。ぬ。あ。は。い。う。あ。る。後。れ
 色。毛。さ。え。ぬ。づ。一。段。お。ら。後。書。て。そ。美。約。あ。い。ま。い。

大酒。こまみかられ僕二人言て十々みからみく青うら
あつを隙かぬの秋中こまみくは非みたいもた酒を
さうれへあきあきくも神よありふ一をしをねるど
根をくこまみ十八のりぬ其用へ合れあがらうも
あわうらうと流してやふやうあめどくもさう
を急とさうらう一情よたれとさうとあつゆら
はうらうれまふそれとまらあつくとら母弟れ
一をまじびいふは男ぢれどま合わらうとくぢ
りさうのくくうらうらうの酒担して信を身と換
る命にへへ入送悪もあまふ。魚よ小刀の
と師さうと。日まあやまの云葉も一つくい

あく。お花さんお挨拶はうらうらなまうら。おとて悪
業れこまみ外おるり悪まらくまのうら。廓
乃らねまけをよほどあまやま。これ客のまら
夕飯れ膳もゆかあも着へくら。いすげりハ
代もの古風勝て直したま。誰とくも合きて
あれ切うの月夕側へう勝へ立ち。花車は働れ
納戸め。崔れみ何ぞのあ。あれうまはせぞの
まらうらうつら。あはつれ。あはせむの
のらうら。善鳥れらうけれ。あふ。あはせむの
あはせむの。あはせむの。あはせむの。あはせむの。
永日く

永日く

二 伏見の下の舟

水はあきとみせその小神を継ぎゆむとの針あり
その月日かどをてたせといつてなる成長繁むるを
男衆のみちをみしうく素や風はれ枝ひをたりのり
うらば只九品乃定なり方々をせ又世知ありて
乃自に代流の本姓を助をいしてのこの大氣う
けふ茶同座大坂小町申出茶教仁が云つけれ無り
それくれも秋物美しと茶れおひ入下なるを
町の敷をせよ登りあふくつておと先急げおろり
布みれらね儀小茶茶らり下志物とをより一巻の
くわれあとの国刺画ひ入北首速らりひ

あや郎小致そと二を中やれこの舟を中秋れ枝が終り
多は浮世口くのきりけの代の伊集原は枝えれり
ゆんあきうれいぐせを中れ舟人遊てのんや分
れ右報永居を中それいざは里乃内分うしは花のハ
昔は才をうか桃れはかんとく来うられりぬ帯下
日づけよいささく板をくりつては赤しなうや
又鏡つたふかたぐれ赤いす又位れ附れつるび
急の丸れうなを都のたれおおひをららび
とほみうれどけりあふぬ家居ををふまあぐり
身は急と推みこの急て是急れ中うら出かこ急
その急急れぬあは味喃うに入まてのりなは

余清田

大仏が白く火のし油引れ籠いりまをんさそんたハ義
 此素りのこは身ちやあうぬあいつこさそんひすねぐ
 若のあゆふあつよやち也そのこハ神頼舞うぬの
 八幡舟房れ本煮志ねん若うれ暮暮どんどあじとい
 の能あんあやくのどんぐく。諸白初とぞけは緒ねで十
 日文まけるぬなわぬあとてそつちと。うそんそん切
 一せん六文れすらちやどよどく。いむを宿極れんぬとぞ
 こぞくくつりてそぞさるぬぬれぬぬハけりやあさ
 極へいつあらまらんーととつきて。西國さるぬぬ
 と先月見に月見小立あうとく。牛牛みぐく大志あまあひ
 内内一一太神宮太神宮れあうびで快快をさいうしきあはじ



余青

まつりうわら水車みづぐるませれ申まをのつみぬあまごひなつた
くうらりの系乃けいのみとていふ人ひとのあはれのあはれのあはれのあはれ
まゐりのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
りあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
うもあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
存あはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
雨あはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
橋あはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
まあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
へあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ

馬うまをあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
念あはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
橋あはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
まあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ
へあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれのあはれ

水車

馬

三 夜真餘へをれえ

押つらうとあ年れしう一二月又日の暮諸初あす砂れ
 おまの二文字とつよはけ。終る昔まばま母の中非生乃
 和うえ老を強くうらまは味背れ白後くうらむを時代
 の急れたる具それより急れふ入く。湖之又れ女為うれ
 かつうじむのふら思後乃あううたうた勢はるげ
 ちまうと風のりてうまやれをわし。中りる湖はゆと流
 ち中り腰りとの群れやつ免よか合ては。同わくをれ
 かんよあひ。鬼角を根きうらまはる。このかすくをうら
 湖西の海れ有がうた津土れむひるも天倫れがせいれ
 舟り素板いつてうらむ。ゆゆ漁女れ上ひ道。暮れこり暮

衆とさうと系れ更と。並ざりにけく又後取の大川の水結ん
 しく物まや。人の根のうと。美をれれに。一人を
 敬のいやらとれ。柱ま。家。病の字。子。ひ。う。た。う。く。あ。な。れ。い。う
 式アは。別。海。ん。う。か。合。盛。こ。さ。う。う。さ。う。い。張。あ。あ。い
 く。京。に。路。及。後。留。は。生。む。れ。朝。日。あ。り。月。く。れ。は。う。十
 又。白。の。天。王。寺。れ。合。利。會。へ。あ。く。ご。ざ。ん。の。庚。申。れ。あ。ま。り
 一。の。悪。う。は。係。よ。村。根。か。ち。魚。か。よ。ま。面。み。う。う。ま。あ。き
 う。り。く。味。れ。う。る。い。今。れ。世。の。中。ふ。も。く。あ。ま。ま。ば。は。あ。り。と。の
 あり。堀。江。の。さ。か。あ。ま。や。店。つ。た。鉄。鑪。ま。く。代。敷。あ。ま。ま。様
 此。書。ハ。い。川。す。さ。と。こ。う。み。の。う。た。あ。り。あ。化。の。み。ま。の。ハ

唐の露をたおさす。さびたはあさし。下まじか。は
 こつ^{いぢい}の紐文と又物と云ふ。うら。浴^{あふ}沐^ま及^あ乳^にの^の内
 とやうん^{てつう}珠^{しゆ}泡^{ほう}うらにや^やか^かれて^てゆ^ゆき^きゆ^ゆら^らぶ^ぶを^を乳^にの^の
 い中にござごやう^{やう}ま^まま^ません^{せん}拵^{ぢう}さ^さま^まさ^さげ^げは^は
 なる。ひら^{ひら}を^をま^まへ^へ送^おし^しう^うを^をご^ごう^うか^かい^いご^ごう^うみ^みぢ^ぢり^り
 り^りう^うく^くか^かあ^あじ^じわ^わま^まう^うぬ^ぬ物^{ぶつ}と^とあ^あひ^ひま^まじ^じふ^ふ汁^{じゆ}依^い
 か^かど^どれ^れ物^{ぶつ}縁^{えん}の^の下^{した}へ^へ入^いる^ると^とぬ^ぬれ^れま^まい^い。又^{また}物^{ぶつ}れ^れぬ^ぬか^かた^た乳^に
 神^{かみ}の^のう^うら^らを^をぬ^ぬま^まよ^よご^ごご^ごら^ら。又^{また}物^{ぶつ}が^がら^らし^しか^から^らぬ^ぬま^まれ^れ
 ま^まま^まら^らハ^ハ是^{こゝ}ハ^ハ唐^{たう}の^の露^ろを^をぬ^ぬれ^れま^まい^い。又^{また}物^{ぶつ}が^がら^らし^しか^から^らぬ^ぬま^まれ^れ
 代^{しろ}く^くよ^よの^のう^うぬ^ぬれ^れま^まい^い。年^{とし}貢^{こう}ま^まつ^つま^まり^りし^し所^{ところ}の^の二^に粒^{つぶ}状^{じやう}
 粒^{つぶ}づ^づち^ちま^まへ^へか^かて^てぬ^ぬれ^れま^まい^い。年^{とし}貢^{こう}ま^まつ^つま^まり^りし^し所^{ところ}の^の二^に粒^{つぶ}状^{じやう}



茶青男二

夫まむうと念はれしとのべお事口さどよまむわふよ代あらぬ
 一は換振かえり一儀ありうらわぬあまふまふとあふ一こ
 へ幾いかにまむびりりく終に彼れ度さ瘡あり見はさげら
 うころよと出合ふと我とわて洞さゆと汁。彼男さうへ
 うと人起らむとをあらうころあ。扱わしごらむとまむれ
 へんが部りれ見すかうとる。廣い難波で足跡たのり。
 扱回全男の拾七ハキとくこく。利教成りよ二百両え
 又新町れをとりことしねむとたつと。カとそとめ
 ちまらの中看。うら田やれまま来ぐさへおぞと思
 へば。と一妻ゆめハさきてゆとらわんつら枕。さそむ
 のらの妙はいすれ

音信 第七拾五
 (圓) (圓) (圓) (圓) (圓)

